

清水みじ 清らかだより

2022年7月

45号

南風原町・八重瀬町
コミュニケーションペーパー



04

予算公表

令和4年度 南部水道企業団の予算概要

11

水質検査結果

～PFOS、PFOA検出なし～

- 02 水道事業組織のしくみ
- 03 国庫補助事業の協力願いについて
- 04 予算公表
- 06 地下ダムが地域活性化の原動力に
～八重瀬町・慶座地下ダム～
- 08 南風原の空に挑み続けた偉人 飛び安里

- 10 水質検査計画
- 11 水質検査結果 ～PFOS、PFOA検出なし～
- 12 小・中学生図画作品コンクール
- 14 企業団ニュース
- 15 あのまち、このまち

給水人口(令和4年5月末現在)

南風原町 40,487人

八重瀬町 32,381人

合 計 72,868人

地下ダムが地域活性化の原動力に

八重瀬町・慶座地下ダム



南部水道企業団が取水している慶座地下ダムの農村施策に基づき、具志頭間切でも慶座原を開拓し、新村落の建設を図りました。しかし、慶座原は、琉球石灰岩丘陵部台地上にあることから、水の便が悪く、飲料水や生活用水の確保が開拓の問題でした。近くにある慶座バンタには、海に面した断崖の中腹から吹き出す滝があり、豊富な水量で海に流れ落ちたことから、この水脈を台地上で掘り当て、井戸として利用するために、大規模な慶座井をつきとめることができず、工事はほぼ失敗に終わりました。(後略)

昔から、沖縄本島南部は「涸摩文仁」と呼ばれたほど水に恵まれていない地域でした。年間二〇〇〇mmもの降水量があるにもかかわらず、そのほとんどが台風時と梅雨の時期に集中しており、地下には水を通しやすい石灰岩が広がっているため、降雨のほとんどが地下水となって海へ流れ出しています。

この地域の開拓を計画した琉球王府は、豊富な地下水に目をつけたものの、当時の技術ではこれを上手く利用することができなかつたのです。

近代以降も、この地域で農業を営む人々は、集落な分野に波及しているのです。

の湧き水を利用したり、畑の脇に貯水池を掘って水を貯めたりするなど、長らく水問題は農家の手にゆだねられていました。

転機がおとされたのは昭和62年。宮古島で、世界初となる本格的な地下ダムの建設が着工されると、本島南部の農家を中心に地下ダム建設の声が高まりました。これを受け、慶座地下ダムと米須地下ダムの建設により農業用水を確保する、国営沖縄本島南部農業水利事業が本格的に動き始めます。平成5年、米須地下ダムの着工、平成10年、慶座地下ダムの着工、取水施設、揚水施設、ファームボンド(貯水施設)、さらに用水路、排水路

などの工事を経て、平成18年3月、同事業は完成了。

地下水を効率よく利用する 地下ダムの仕組み

地下ダムは、水を通してコンクリートの壁(止水壁)を地下に造り、海に流れ出ていた地下水をせき止め、琉球石灰岩の隙間を利用して地下水を貯める施設です。地下ダムの水は井戸(取水施設)からポンプでくみ上げ、揚水機場から高台にあるファームボンドと呼ばれる貯水槽に貯めて、道路下のパイプラインを通して農地に運ばれます。農地の脇には給水ボックスが設置されており、農地内のスプリンクラーなどの設備につなぐことで、蛇口を開くといつても水が出るようになっています。

慶座地下ダムでは厚さ55mの止水壁が深さ最大53m、長さ約1kmに渡って地下に築かれており、貯水量は21万m³に及びます。現在八重瀬町内では約300haの農地で慶座地下ダムの水が利用されています。

慶座地下ダムができたことにより、地域の農業は大きく変わりました。それまで雨待ちで植え付けられていたサトウキビは、雨を待つことなく、計画的に植え付けられるようになりました。植え付け後も必要な時に水がまけるので発芽が良くなり、反収も向上しました。サトウキビ以外の野菜類や花き類も積極的に栽培されるようになりました。八重瀬町ではピーマン、紅芋、小菊、オクラ、サヤインゲン、マンゴーの6品目が相次いで県の奨励産地に認定されました。計画的な営農が可能になったことから、規模の

拡大、ハウスの導入が進むとともに、農業に取り組む若い世代が徐々に増えるなど、後継者問題にも改善が見られます。

慶座地下ダムの管理・運営を担っている沖縄本島南部土地改良区の伊敷学事務局長は、「サトウキビ一辺倒だった農業が、地下ダム完成後は多様化、拡大化し、農作物の生産量、売上も大きく伸びている。地域の農産物販売コーナーを備えた観光施設ができたり、農産物を活用した商品開発が活発化しており、土地改良区の目標の一つである地域の活性化につながっている」と話します。慶座地下ダムの恩恵は地域の農業だけでなく、さまざま

農業の可能性を広げた慶座地下ダム



取材協力／沖縄本島南部土地改良区、沖縄総合事務局土改改良総合事務所



▲上の井（ウィーヌカー）



▲中の井（ナカヌカー）



▲下茂の井（シムヌカー）

写真提供：南城市役所

小谷の人々の暮らしを支えた3つの井戸

南城市佐敷の小谷集落には、**上の井**、**中の井**、**下茂の井**と呼ばれる3つの井戸があります。小谷で暮らす人々に生活用水を供給する大切な井戸であり、上水道が整備される前の昭和49(1974)年頃まで実際に使用されていたといわれています。

上の井は飲料用として使用されていた大事な水源です。旧暦12月27日のウワーグルシー(豚を捌いて食べる)にチーアリチーを捧げるのを怠ったため、井戸の水が

真っ赤に染まったという説話があります。中の井は洗濯やイモ洗いに使われていました。下茂の井は、中央に自然石があり、古くはこの石から左右に分かれて男女が利用していました。別名を夫婦井ともいいます。拝所もあり、脇には水の神を祀った碑があります。

小谷はかつて竹細工が盛んだった地域で、琉球石灰岩が敷き詰められた石畳道や古民家など、昔ながらの沖縄らしい景観が残ります。3つの井戸は、昭和55(1980)年に南城市的有形民俗文化財に指定されました。

南部水道企業団 位置図



お問合わせ先



- 水道料金に関すること
- 引越しによる開栓および閉栓に関すること

経営課 TEL 098-998-2151

- 水道工事に関すること
- 水道水の漏水に関すること
- 給水開始の受付並びに給水工事の監督および検査に関すること

**施設課、管理課 TEL 098-998-2897
098-840-7677**

- 広報紙およびホームページに関すること
- 文書の收受に関すること

総務課 TEL 098-998-5018